

全国屈指の農業県茨城において、多様な人材が農業分野に参画し、グローバルな時代に通用する革新的な農業経営スタイルの創出を目指す。具体的には、農業経営者、労働者双方のコミュニケーションを基本に「働きやすい職場づくり」をすすめ、農業に携わる全ての人たちが安心して働き、生活を営むことができる環境改善に取り組む。これにより、農業が魅力的で選ばれる職業として評価される条件を整える。なお、対策を講じる対象は「臨時雇用型」を最重点に、雇用型農業経営体とする。特に、外国人材に過度に依存している現状の危険性を憂慮し、獲得競争が激しい国内労働力市場において、他産業には無い魅力を「見える化」し、農業分野への労働力供給を活発にすすめる。

事業実施主体構成員

県障害福祉課、県農林振興公社、県農業法人協会、JA・中央会・信連・共済連茨城
 <協力企業> 求人ジャーナル、アルバイトタイムス、日本生産者GAP協会他

実績値（目標値）

- ①労働力受入担い手農家数：約20件（農業法人）
 （農家・JA施設等の労働力を50件以上の確保）
- ②労働環境に満足している被雇用者の満足度：次年度に調査（8割以上）

令和2年度取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握

8JA、40農業法人の協力により、9・10月に約250件（雇用経営体）を対象に調査を行った。約50%が労働力不足と回答し、特に臨時雇用型経営体は57%が不足であり、血縁者や地縁者で確保するケースが多いため、ここにスポットをあてた対策を検討する必要性を確認した。

イ 労働力の確保・育成

「総合的な農業労働力確保に関する研究会」を7月に発足し、10月、1月の計3回開催し、JA職業紹介事業体制の整備、多様な労働力確保対策等に関する検討を行った。また、7月、12月に「新農業人フェア」（県農林振興公社主催）に参画し、新規就農支援と関連付けた労働力募集のPRを行った。

ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

4月に本格的運営を開始した農業向け求人サイトの利用促進により、マッチング機会の拡大を図った。（登録70件、応募260件、マッチング約40件）さらに12月に同サイト上に本県農業をPRする動画、およびインタビュー企画を掲載し、同サイトへのアクセスを促進した。

エ 農業の「働き方改革」への取組み

雇用型経営体における労務管理レベルの向上等に資するため、JA担当職員を対象に、農業関連施設に関する衛生管理セミナー（12月）、農業向け労務管理セミナー（12月・1月）を開催した。また、農作業負担軽減など労働安全面を重視し、アシストスーツ等の貸出しによる実証試験を行った。

オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

12月に静岡県、千葉県、栃木県との4県による情報交換会を実施し、共通課題の抽出、各県の特徴的な事例紹介などを行った。また、次年度計画を検討する際、産業雇用安定センターとの連携による他産業との人材交流（出向・移籍方式）、携帯端末を活用したマッチングアプリの活用を提案した。

課題と令和3年度 of 取組み内容

ア 労働力の需給状況の把握

【課題】

- ア) 農業労働力確保に関する実態の把握
- イ) 被雇用者向け満足度・不満足度調査の実施

【次年度の取組み】

- ア) 県中央会、全農いばらきが連携して、全JAを基本に生産者の農業労働力に関する実態、要望等について調査を行う。
- イ) 被雇用者を対象に調査を実施し、働きやすい職場改善への対策を講じる。

イ 労働力の確保・育成

【課題】

- ア) 多様なマッチング機会の創出
- イ) 新たな3か年構想への反映

【次年度の取組み】

- ア) 産業雇用安定センターと連携したJAと他企業間のマッチング、マッチングアプリを活用した求人者と求職者による直接的な採用方式などを導入し、確保の機会を拡大する。
- イ) 労働力調査結果を今年開催の県JA大会議案に反映させ、大会決議を踏まえた新3か年計画(R4年度～R6年度)に、農業労働力確保支援策が組み入れられるように支援する。

ウ 労働力等のマッチング及びデータベース化

【課題】

- ア) 農業向け求人サイトの積極的な活用
- イ) 求職者を対象とした人材バンク化

【次年度の取組み】

- ア) JAグループの求人サイトの活用を通じて、求人・求職者間の情報交流を活発に行い、採用機会の拡大を図る。サイト上に農作業マニュアル動画等を掲載し、応募への機会を拡大する。併せて、JA職業紹介事業体制の整備を働き掛ける。
- イ) 応募者に関するデータベースを構築し、求人情報などを提供することに働く人材として登録をすすめる。

エ 農業の「働き方改革」への取組み

【課題】

- ア) 作業マニュアル等による働き方の「見える化」
- イ) 各種研修の実施
- ウ) 作業負担軽減に関する機材の導入と検証

【次年度の取組み】

- ア) マッチングアプリ企業と連携し、サイト閲覧者に働き方の情報を事前に提供する仕組みを構築する。
- イ) 労務管理等ガイドブックを活用し、雇用経営体向け研修の開催を促進する。
- ウ) 農作業サポートスーツ、熱中症予防資材の有効性について検証を行う。

オ 他産地・他産業との連携による労働力確保

【課題】

- ア) 多様なマッチング機会の創出
- イ) 県域を越えた連携体制の構築

【次年度の取組み】

- ア) 産業雇用安定センター等と連携し他企業からの人材受入れ(出向等)、マッチングアプリ企業とのコラボによる新たなマッチング手法の構築に取り組む。
- イ) JA全農との協議により、関東ブロック農業労働力推進協議会(仮称)の設立・運営を検討する。